日本バプテスト連盟
有事立法制定に反対する声明

現在第１５４回通常国会において有事関連三法案が審議されている。私達は、これら有事法制定により日本が再び軍事大国となり「殺す国」へとなることに反対する。

小泉純一郎首相は、「備えあれば憂いなし」と強弁している。しかし、なぜ「殺すこと」によって、また「殺す備えをする」ことによって「憂いなし＝平和」となるのか。これは、大変矛盾した論理であり詭弁に過ぎない。敗戦後日本は、平和憲法を有し殺さない国として歩んできた。事実日本は、軍事的侵攻によっては戦後誰一人殺すことはなかった。政府は、なぜ今更その憲法を捨て「殺す国」へとなる法案を推し進めるのか。聖書は、端的に語る。「殺すな」と。私達日本バプテスト連盟諸教会・伝道所に連なるキリスト者は、この聖書の言葉に生きている。私達は、殺さない。いかに政府がこの法案の成立を謀り、野党さえ明確に反対せずこの法案を推し進めようとも、私達はこの有事立法に反対する。

また、たとえ今回この法案が強行に採決され成立しようとも、私達は「悪法は、悪である」ことを確認し、そのような法には従わないことを宣言する。私達は、戦争に協力しない。「努めること」をしない。これまで日本バプテスト連盟は、靖国神社法案に反対しこの成立を阻止した。また第二次大戦に対する教会の戦争責任を明確にしてきた。さらに、建国記念日制定に際しては、これが法案として成立した後も、それを認めず法に服さない姿勢を貫いてきた。現在も日本バプテスト連盟事務所はこの旧紀元節を祝日（休日）と認めず通常の業務を続けている。私達は、悪法には従わない。平和の主、イエス・キリストにのみ従う私達は、戦争遂行を目論むあらゆる法案、およびその備えを認めずそれらに服しないことを宣言する。

日本国憲法前文には、こう記されている。「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」。私達が求めるものは、専制と隷従、圧迫と偏狭の除去であり、恐怖と欠乏から免れることなのである。それは戦争への備えによっては、決して成し得ないと確信する。軍備の増強や戦争への備えは、これら本来除去すべきものを世界に増し加える結果を招くと考える。

私達は、わが国が世界において名誉ある地位を占めることを願う。そのためには、決して軍事大国となってはならない。既に自衛隊と言う名の軍隊をもつわが国は、これ以上世界に対して、特にアジア諸国に対して専制と隷従、圧迫と偏狭、恐怖と欠乏の火種を有してはならない。折りしも福田康夫官房長官の「核兵器保有」容認発言によって有事立法制定を狙う現政権がどのような国家を目指すかが明らかになり、内外からの懸念の声が高まっている。政府は、この悪法制定の企てを即刻取り下げ平和憲法に即した国際社会での役割を果すべく取り組まねばならない。

私達キリスト者は、この国の為政者が再び道を誤らないために祈りを捧げたい。そして、「平和を造りだす者」（マタイによる福音書5章）として自らのなすべきことを為し、教会の使命を果たすことを誓う。

「あなたは殺してはならない。」　（出エジプト記２０章１３節　十戒）

「知恵は戦いの武器にまさる。しかし、ひとりの罪びとは多くの良きわざを滅ぼす。」　（伝道の書9章１８節）

「彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、多くの民のために仲裁に立たれる。こうして彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。」　（イザヤ書2章４節）

「そこで、イエスは彼に言われた、『あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。』」
（マタイによる福音書２６章５２節）

２００２年6月１３日
日本バプテスト連盟　理事会
理事長　　安藤榮二